

SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

NO. 21

2001年6月



堺市泉ヶ丘駅前の開発建設が、ほぼ終わった景色。
国の「国連・障害者の10年」記念の施設、ピック・アイが
完成。今秋にオープンする。
障害のある人も、すべての人が市民施設を障害なく利
用でき、宿泊もできる「ピック・アイ」である。

『21世紀のはじめに』

理事長 岡村 筍



いったい人は何処から来て何処へ行こうとしているのだろうか。人ゲノムの研究が進んで、人の遺伝子DNAは今まで考えられていたより少ないことが解ってきた。高等動物のそれは大ざっぱに殆ど同じだという。植物ですら感情を持つという。その中で人のみが複雑な思考をし、未来を予測してきた。21世紀ははたしてそう皆く行くのだろうか、不安をかかえた幕明けである。

デザイナーなる人々は人間が持っている脳の働きの感情部分、感性領域が豊かで、常にそれを増大させ、磨き、生活上の心地よさを人々に与えて来たのではなかったのか。生きている満足とは心の満足であってそれ以外の何物でもない。一方デザイナーがつくり出す心地よさを享受する側もどこかでそれぞれの心地よさを求めているがIT革命や不況経済のためと称して今ではデザイナーの仕事を否定している。アメリカの例を習うとすればITバブルのはじけた後の世界を、我々の支えてきた感性の部分を、ここで止絶えさせては職能人の責任を果せない。過去の歴史に裏打ちされた知識と、現代の知恵が最も人らしい気持ちのいい21世紀未来を想像して行けることを願いたい。



『この頃思うこと』

(株)大阪山田守建築事務所

崎田公明

春山満氏とは老人保険施設ソルヴィラージュを設計する際にはじめて知りあった。老人保険施設がどうあるべきかをめぐって大いに論争したのを覚えている。1994年のことである。その後、大阪府建築士会で高齢者施設が今後どうなるのかの講演を依頼したのをきっかけに、また彼の数冊の著書を読むにつけ、更に彼自身を身近に感ずる様になった。

ところで春山満氏。ご存知の方もいらっしゃると思うが、1954年兵庫県生まれ。24歳の時に進行性筋ジストロフィーを発症、現在首から下の運動機能が全廃、そんな身体にもかかわらず介護用機器の企画、販売。医療、保健、福祉全般のコンサルタントを手がけ、更に年100回に及ぶ講演活動も精力的に取り組むスーパーマンで、障害者や介護者に元気を与え続けている株式会社ハンディーネットワークインターナショナルの社長さんである。

その彼が一貫して言い続けていることは今、医療、保健、福祉の世界は大変革期を迎えようとしているが、この時期を自分の施設を見直す良い機会ととらえ、ソフト面、ハード面を再検討し、必要があれば改革し勝組に廻る様軌道修正すべきであるということ、2000年に介護保険が導入されたが、これは介護制度全般の問題点を洗い出すための、ひとつのきっかけが与えられたにすぎず、実はこれからが本番であり、高齢者はますます増加の一途を辿り、また各個人にとってもその生き方、考え方の意識を再確認しなければならない大変な時期になったのだということ。親の面倒を見るのは良いが、拳句のはてにフラフラになり親が亡くなってホッとする様な状態は決して良い社会ではないということ、しかも今度は我々が加害者になる番で身内をフラフラにさせることになりかねないということ。一方高齢者にとっても尊厳をもって人生を全うするため最後まで自立を忘れず、年齢と共に老化、劣化する自分に対してなくなった機能を悔やむのではなく残存能力を120%発揮できる環境整備が必要であること等である。彼

の発言する内容には共鳴することが多く、特に私共の事務所が比較的これら医療施設、高齢者施設を多く手がけている点や、自分自身の将来を考える時にこれは他人事ではないと受けとめている。

デフレスパイラルともいわれ停滞感や不景気感が蔓延しているむずかしい世の中であるが我々デザインを志す人間にとって、今こそこれらに取り組まなければならないと思っている。デザインがひとつの考え方にもとづいているんな手段を駆使しながら、あるかたちに秩序だてることであるならば、既成の概念にとらわれることなく新しい時代に見あった解を、導き出す必要に今迫られているように思う。そして健やかな過し方をするにはどのような環境を準備すればよいのか、癒しの設えとはどのような装置なのか、一方高齢者に対して自立を支援するには何を留意しどの様に手をさしのべればよいのか、私達に投げかけられている緊急の問題である。これらを注意深く解決しながら、その建設後、その地域の風景の一部となりながら存在感を保ち続けるものを世に送り出し、提案し続けたいと思っている。幸い2000年7月にISO9001が取得できた。これをひとつのきっかけにし、更に上を目ざし、世の中から必要とされる存在になることを目標にすべきなのだろう。それには得意な分野に特化しつつ多くから選ばれる企業に成長すべきであると確信している。

『学生と共に』



安永一典

古代エジプト人は、脳は鼻汁や涙を生産するところで、物考えるのは心臓であると考えていた、ということである。ミイラを作る時も脳はさっさと捨て、心臓だけは壺に大切に保管し、来世の復活を願ったのである。現在は勿論、脳の研究も細かいことまで進み、色々なことが解明されているようであるが、そのような中で、右手をスケッチなどで動かしているうちに、脳を通過せず、右手が自然に考えるようになる、といった研究があるようで、その動かす手のアフォーダ

ンスが注目されているということである。ところで現在、日本全国で毎年3万人のデザインを学んだ学生が卒業しているという。勿論その需要が充たされる訳ではないが、それだけデザインの学び方も、我々の時代と大きく様変わりしているように思う。一つはコンピューターである。コンピューターの存在は、現在の生活に欠かせないものとなりつつあり、更に進歩することであろう。CADで描いた図面は、見た目には美しいし、パースも写真と見まごうばかり、学生がそれに酔うのも当然かと思える。しかし表現の美しさとデザインの良さとを勘違いし、いきなりCADで描き出すとは……。右手のアフォーダンスはどうなったの、人の注意も聞かないで!

それにしても20世紀が追求してきたデジタル化の利便性とは何だったのか。カラヤンやベームの心を揺さぶる名演奏も、燃えるようなアームストロングのジャズも、0101に置き換えられているとは。またこれを聴く時、オーディオ機器が遠隔操作で勝手に設定してしまう。自分の耳を信じ、最も良いと思われるダイヤルを、昔は操作したのに。カメラも自動で易々と写ってしまう。シャッター・スピードも絞りも自分の感性を信じて決め、ピントを合わせる。そして失敗すればそれを次に生かすことが出来たのである。そのホロ苦い失敗を経験することが、如何に貴重な体験で我々を成長させてきたことか。

更に最近嫌な言葉が、バリア・フリーである。乗り物の中などで、お年寄りや身体の不自由な人に席を譲ろうともしないで、設計はバリア・フリーにしました等と言う。若い人達は、その矛盾に気が付かないのだろうか。これは全く、設計上だけの偽善に他ならない。社会が成熟していない証拠とも言えよう。

そのようなことで、教育の現場で考えさせられることのなんと多いことか。単位だけが取得出来て、役にも立たない卒業証書が欲しいのか、それともデザインを本気で学びそれを通して少しでも社会の役に立ちたいのか。そして3万人の卒業生達はどこにいくのだろうか。彼らの層の厚さがデザインという大切な文化を底辺から支え、日本全体がデザインのみならず、社会的成熟度を高める役目を背負ってくれることを期待しつつ、あれこれ脳と心臓で考える今日この頃である。

『21世紀・堺市の未来デザイン』を読んで

館野創作環境研究室 館野羊一

1. はじめに

21世紀に私たちが、「堺市」をどう設計すべきかが提示されている。なかなかの力作で、目標値も具体的に分かりやすいビジョンがまとめられている。

この『未来デザイン』は、当協会員の方も一般参加され、「明日をどうするか」の議論に加わったと聞いている。1998年の市民意識調査からはじめ、「まちづくりシンポジウム」、「市民グループまちづくり提言の募集」、「市長への手紙・まちづくりわたしの提案」の募集をへて、『新21世紀・未来デザイン市民フォーラム』、『インターネットによる情報提供と意見募集』など3年を掛けてまとめられたものである。広く意見を聞くとともに、主役である市民の参加を大切にしている。

私はまず通読し、堺市の明日がどう見えてくるか、をイメージしてみようとした。見方の重点を次の2点とした。

1. 都市としての立地に恵まれている『堺市』だが、21世紀にどのようなランドデザインで、どう発展させようとしているか、の都市機能整備ビジョンを見る。
2. 不況であるこんにち、将来にむかって改善するため、特に前期計画では何に重点を置くべきであるか、特色あるビジョンは、また施策がどう提言されようとしているのか、を見た。

詳細は堺市発行の資料を通読することをお勧めするが、関心を持った部分の要点を紹介したい。最も知りたい堺市の産業、経済活性化のビジョンに少しスポットを当てて、要約とした。

2. 要約 堺市総合計画 『堺21世紀・未来デザイン』

1. この計画の構成は

①基本構想 ②基本計画 ③実施計画で構成されている。基本構想の達成年度は2001年度（平成13年度）から2020年度（平成32年度）までの20年間である。

このうち前期基本計画を2001年度から2010年度、後期基本計画を2011年度から2020年度の、それぞれの期間としている。計画の対象区域は堺市全域とし、あ

わせて社会生活圏が重なる周辺都市との連携など、広域的な視野をもって計画をする、としている。

2. 堺市の21世紀の展望をどう診たか。

1. 『生活の豊かさを求める時代』とまず認識する。物質的な豊かさや効率性を追求する視点から、見方を変えて自然志向や地球環境問題、自己実現、ボランティア活動などへの関心の高まりに見られるように、価値観はより精神的な充実を求めると見る。あわせて自然災害に対処すること、新しい感染症の発生、犯罪の低年齢化など、社会生活の安全を脅かす事態に備え、安心して豊かな社会生活を確保する市政を目指すとしている。
2. 『人権・個性尊重の時代』とする。人権を守り、あらゆる差別を撤廃する。男女が対等な立場であらゆる分野に参画し、個性や創造性が発揮される社会としたいとしている。
3. 『少子化・高齢化、人口減少の時代』とする。
4. 『環境共生の時代』と認識する。自然環境を保全するとともに、良好で快適な都市環境を創造し、その恵みを将来に引き継げるように、自然との共生を進める。
5. 『高度情報社会の時代』と認識すること。
6. 『地球時代』とする。人、物、情報が地域や国を越えて活発に交流する、と認識する。
7. 『分権の時代』とする。首都一極集中の時代から地方自治体の自己決定権の拡大への役割と責任が増すことへの取り組みを行なう。

3. 基本構想

これからのまちづくりを進めていくための基本視点として、

1. 『ひと』をまちづくりの中心とする。
2. 生活の質を高める。
3. 将来に向かって発展する基盤をつくる。
4. ともにまちをつくる……という視点を取る。

これらを踏まえてまちづくりの基本理念「輝くひと やすらぐくらし にぎわうまち ともにつくる自由都市・堺」としている。そして、

1. 『ひとが輝く市民主体のまちづくり』
～自由と自治がいきづく人間尊重都市を築くために～

2. 「健やかにくらす、やすらぎのまちづくり」
～健康都市・堺実現のために～
3. 「個性がいきづく つどいのまちづくり」
～新時代の交流都市を築くために～
4. 「次代をひらく 産業躍動のまちづくり」
～進取の気風に満ちたまちをつくるために～

〈中間部省略〉

4. 前期基本計画（2001年～2010年）

堺市は大阪都市圏と、和歌山県、奈良県に至る種々の産業、文化の連携を計れる立地にあつて、大阪湾の海運、陸運の道路整備、鉄道にも、空港による空輸でもいいアクセスを持つ。そして重工業、加工業と伝統産業による産業力を持っている。また自然環境にも恵まれ、住環境としても良好なエリアを持ち、人工集積性にも期待が持てる立地で、特色を持たば将来性があると思っている。



都市構造図

総論の「IV都市空間形成計画」では、都心連携軸（東西軸）と内陸軸（南北軸）とにより中心の計画とし、東西軸として北に大和川軸、南に中央軸を置いている。南北軸には西側に湾岸軸を置き、中百舌鳥新都心から東南に高野軸、南西に環状軸を、それぞれ整備する都市動脈として計画されている。

この計画の最大の中心地、中百舌鳥新都心は最も関心を寄せる核心であるが、新産業、文化、学術の集積を計るとあるが、後述の産業新世紀像の記述だけで、まだ未来デザインが曖昧である。早い時期に明瞭にしてほしいと思った。特色ある投資、支援を望みたい。それがまた、

地域の活性化のビジョンになり、産業活発化の方向となると思われる。

5. 各論より（第1部から第3部は省略）

第4部 次代をひらく産業躍動のまちづくり（要約）

第1章 地域経済を支える産業の振興

堺市は臨海都市であり港湾、関西空港も近く、産業振興の立地は悪くない。ただ国際分業化による地区外への移転、地域競争などにより、産業成果は低下傾向にある。

振興策として、これまで同様、産業技術の集積を基盤とし、ものづくりの機能の一層の高度化、高付加価値化をはかる。先端技術分野などの企業立地を誘導し、新たな雇用の創出や地域経済の活性化をはかる。

第1節 工業の振興

臨海部の素材型産業、内陸部の機械、金属加工産業、それに伝統産業などがあるが、今後、高付加価値化を助成しつつ、新しくソフトウェア業、情報処理サービス業、デザイン業などの産業支援を行なうため、支援サービス業や高加工技術を持つ企業を集積する。

あわせて、「自転車」「刃物」「線香」「敷物」「注染」「和晒」「昆布」などの伝統産業の振興のため、1. 商品開発の支援。2. 広報、見本市、イベントなどの場作り。3. 技能研修や育成をはかって、後継者の確保、育成をはかる。（注記：産学官による振興。大阪府立大学や府立産業技術総合研究所に相談、指導を受け、依頼試験の機会件数を増やす。）これらの目標達成のため、産業環境の整備を行なう。……としている。

第2節 中小企業の振興

1. 経営革新の促進のため、○新事業分野の開拓支援、新製品の開発、販路開拓、資金調達、などの支援を行なう。○情報通信技術を活用した情報収集、発信機能の向上支援を行なうアドバイザー派遣や講習会を行なう。○国際化、技術革新、高度情報化の進展のため、人材育成、専門研修、人的交流などを支援する。
2. 経営基盤・体質の強化をはかる。○中小企業の経営基盤・体質を的確に掌握し、各種融資制度の充実、経営相談、技術指導などのきめこまかい支援を進める。あわせて中小企業の独自の技術や知識の経営資源の集結を促進する。

第3節 次代を担う産業の創出

1. 新たな成長産業の振興をはかる。
医療・福祉・環境・情報通信などの分野で重点的育成と立地をはかるため、各種奨励制度を整備する。
2. 起業家・ベンチャービジネスの支援を行なう。かつ人材の発掘を行ない育成し、産業経済教育や能力開発支援の機会を充実する。
3. 経済拠点・業務・流通機能の集積の促進を行なう。
○高等研究機関の充実と立地誘導、また企業本社誘致、港湾機能の強化、物流施設の適切立地を整備し、卸売機能の強化、生鮮食料品の円滑な流通、などをはかる。
4. 交流を増やしビジネス機会の創出をはかる。

第4節 環境共生型の産業活動の振興をはかる。

地球規模の環境問題などを重視して、環境負荷の少ない産業活動への支援を行なうと共に、環境関連産業の育成・誘致を行なう。

○ISO1400 シリーズ認証取得、グリーン調達を導入企業。

○リサイクル、省資源、省エネルギー、そして新エネルギー開発などの環境関連産業の育成・誘致を行なう。

第2章 市民生活を支援する産業の振興

第3章 いきいきとした勤労者生活の実現……(省略)

3. 読後の感想

この『未来デザイン』は

1. 総合ラフデザインという印象を持った。深い専門的知識論と、膨大な建設的提言を集約した後に、平易な表現として、まとめられた力作ではあるが、創造力・アイ

デアに弱いのではないだろうか。さらに

2. 『堺市ならではのビジョン』『堺らしさ』が欲しいと感じた。たとえば『中百舌鳥新都心』とはなにか、どうしようとしているのか、現在の分散都心との関連もよく分からない。堺市の区域建設構想のグランドデザインが明らかでない。その点で少し期待はずれ、というのが読後の第1印象である。

3. 厳しいこの時期に、多くの人々が立ち上がるための、『動機付け』を期待している。だからもっと具体的に明らかな未来ビジョンがほしい今日である。

市政者のみが立案するのが『未来ビジョン』ではない。大切なことは『堺市に生きる』人々が、毎日行なっているように、自らの将来を自分で創るために、問題を共通認識課題とし、チャレンジヒントを提供しなければ『未来デザイン』ではないのではないかと。だからもう少し冒険をして『ヒント』を提示してもいいと思う。触発を通じて市民が『未来生活』を実現、実行することへの、助力をするべきであろう。

4. 『未来デザイン』とはこのように、普遍的な作り方をするものかもしれない。もしそうとすれば、これから大切なことは、それぞれの多くの企業や研究機関、また市民の方々が、これからこの『デザイン』を練り上げることに参加する事であろうと思う。

4. 終わりに

昨今、不況である。私たちが暮らしている地域にどんな夢があり、未来デザインがどう設定されていて、希望をどう見つけられるのかを、毎年の市政施策で具体的に示して、実現してほしい。

このたびは、『広報さかい』13年3月号をまず読み、市役所で192ページにわたる冊子『堺市総合計画・新21世紀・未来デザイン』(1,400円)を得て、読んだ。堺市のデータも要所に豊富であり、参加された方々もわかる。言葉の概念を整理した字引きも付いている。また別に52ページの要約版もある。ぜひ皆さんの一読をお勧めするとともに、未来を作ることに参加したいものである。デザインに関することには堺デザイン協会も参加しなければならないと思う。



『木に親しむ』

金子誠之助



木彫沙門天像
金子誠之助 作

日本は四周を海に囲まれ、温暖な気候で、山には緑が溢れ、川は水清く、動植物が生きていくための多くの恩恵を与えている。我が国は「木の文化」であると言われ、自然の中で育っている「森林」が我々に大変身近く、かけがえのない働きをしている事は周知の事と思う。

地形・地質からおこる自然災害を防ぎ、雨の地面に対する給水を助け保水と浄化をし、気温を調整し、風を防ぎ守ってくれている。又二酸化炭素を吸収し酸素を作っている事はよく知られている事だ。空気を浄化し、健康を保つため森林浴が良いとも言われている。

春・夏・秋・冬の四季の表情があり、我々を一年を通し楽しませている。春先には梅、桃、桜と花を觀賞する習慣も有り、最近は余り好ましい状況ではないが、杉・桧等の花粉が人々を悩ませているのも現状である。新緑の若草色の山々、盛夏の深緑から秋の紅葉へと変化のある景色等も、木々のなせる自然の技ではないだろうか。

先人達は古来からその地域に自生する植物を利用し、生活の中に取り入れ、衣・食・住を充実させ文化を育

てきた。住まいに関して、我が国は「木の文化」と言われている。言葉通り木と土の自然素材を利用し、針葉樹材を使いその特徴は、木肌は繊細できめ細かく、白木のままで大変美しい。紙と畳とも釣り合い、その時代の特長ある様式を作り変遷しつつ、現在まで続いてきた。又一方ではヨーロッパは「石の文化」と言われている様に、石の建造物が発達し、内部空間には広葉樹材を使っている。材質のもつ特徴としては、堅硬で、木目は変化に富み、材面は粗く、壁面装飾には木彫等を施し塗装することにより一層材質が引き立てられ、金属や石材ともよく調和している。時代の変遷と共に意匠の変化が見られ、「アカンサス」等の草花を図案化し、石の建造物の冷たさを、木の壁面装飾とタペストリー等で補っている。

今までインテリア関連業務に従事し、室内空間、家具デザイン等、木に接していた関係からか、木に対して人一倍愛着や、思い入れがあり、木に触れた時の温かさ、優しさ等の感覚を何時までも、持ち続けていたため、木彫に挑戦している。そしてヨーロッパの建築内装等に図案化されている「アカンサス」をモチーフにしたレリーフ等を彫り、立体は仏像を中心に手掛けている。

「洋」と「和」とある意味では相反するテーマを持ち続けることにより、木との触れ合いを、何時までも続け、木に親しみ、木の良さを今まで以上に感じられれば幸いであると思う。



アカンサスと少年
金子誠之助 作

堺デザイン協会賛助会員

アルスコポーレーション株式会社
〒590-0939 堺市九間町西2-2-32 TEL0722-29-2070

株式会社和泉利器製作所
〒590-0934 堺市九間町東1-1-5 TEL0722-38-0888

大阪ガス株式会社
〒590-0973 堺市住吉橋町2-2-19 TEL0722-38-2335

大塚オーミ陶業株式会社
〒540-0021 大阪市中央区大手通3-2-21 TEL06-6943-6695

堺市議会議員 松村 寿
〒590-0071 堺市北向陽町1-2-32 TEL0722-32-2255

堺商工会議所
〒591-8025 堺市長曾根町130-23 TEL0722-58-5581

堺線香工業協同組合
〒590-0943 堺市車之町東1-1-4(株)梅栄堂内 TEL0722-29-4545

堺刃物商工業協同組合連合会
〒590-0941 堺市材木町西1丁1-30 TEL0722-27-1001

税理士柴田廣志事務所
〒590-0016 堺市中田出井町3-2-4 TEL0722-28-0888

大醬株式会社
〒590-0823 堺市石津北町20 TEL0722-43-0184

ナカバヤシ株式会社
〒599-8116 堺市野尻町218 TEL0722-85-2525

ばいこう堂株式会社
〒550-0013 大阪市西区新町3-4-3 TEL06-6532-5460

賛助会員活動のご紹介

様々な要素を秘めた大型陶板

大塚オーミ陶業(株) 的場幸雄

〈1. 沿革〉

大型陶板の開発は、1965年より徳島県鳴門市の大塚化学(株)で開始する。1970年滋賀県信楽町の近江化学陶器(株)と共同研究の後、1973年大塚オーミ陶業(株)を設立する。以来大型美術陶板(600×3000mm、900×2500mm)、建築用内・外装壁材、床材(600角、600×900mm、450角)としてOTセラミック、立体表現が出来るテラコッタ、これらの三アイテムを柱として、サイン陶板、額装品テーブルトップ、ミュージアムグッズ等々焼き物で表現可能な商品群を、受注生産している。

〈2. 製造・仕上げ方法の概略〉

一般的に焼き物の成型方法は、粉体をプレスで成型する乾式と、型から押し出したり、型にスラリーを流し



環境展示「システイーナ礼拝堂」



大塚国際美術館

込む湿式がある。弊社は湿式成型、乾燥・施釉・仕上げ着彩・焼成の工程と、一般焼き物とほぼ同様である。

仕上げ工程の特徴は、写真製版・印刷設備を1980年より導入、巾広い表現を可能としている。さらに数万種におよぶ釉薬を開発、これらの技術を駆使して印刷・手描き・レリーフ・イッチン・象嵌・他部材との組合せ等、従来の手法・新しい手法・様々な表現方法を組み合わせ制作する。既に600名におよぶ国内外の画家・彫刻家・デザイナー・写真家・陶芸家・書家の監修の基、全国の建築空間・広場等に採用され、新しいジャンルを築きつつある。尚、施行方法も大型のため、金物を使った乾式工法を主体とし、下地の種類、陶板の大きさ・種類別に、独自開発をしたもので、神戸大震災にも影響のなかった工法である。

〈3. 施工例〉

カテゴリー別の施行例の一部と、弊社の集大成となる大塚国際美術館の作品を紹介する。

大塚国際美術館は、3年前に開館、西洋の名画(古代・中世・ルネッサンス・バロック・近代・現代)を、原寸大で1074点陶板で制作、展示している。環境展示、系統展示、テーマ展示の内容である。中でも古代遺跡や教会などの壁画を環境空間ごとそのまま再現した今までにない臨場感を味わえる12点の環境展示は、圧巻である。展示距離にして約4kmと世界に類をみない陶板名画美術館である。是非一度足を運んでいただければ幸いです。

〈4. おわりに〉

地球的規模でデジタル化が進み、IT革命が崇拝される昨今、弊社も最新の設備を導入しデジタル技術の追求と、文化・芸術を創造するのに不可欠なアナログ的要素、感性の高揚、日本の伝統的技術をより深く修得し、この両者を融合した作品、製品創りが出来るよう、さらなる飛躍をめざす所在です。



堺市緑化センター「床材陶板」

デザイン3代 since 1959

21世紀の幕開けとなる今年2001年に私上野あきらは、デザイナー生活30周年の節目を迎えることとなりました。1959年に父、上野守が大阪市西区立売堀に、デザイン事務所としてセルリアンを設立して以来創業42周年となります。1998年には、息子上野亮が宝塚造形芸術大学を卒業後、(株)スタジオノイエ吉田順年氏の下で、3代目としてCGデザインを修業しており、親から子、子から孫へとデザイナーのDNAは受け継がれました。第3次産業革命といわれる、アナログからデジタルへの大転換期の今、「温故知新」古きをベースにした新しきデザイン、地球に優しいデザインを親子3代に亘り継承することが出来ればと、私自身期待して止みません。

2000年堺刃物商工業協同組合連合会は創立50周年を記念し業界の活性化、技能の伝承、地域経済振興等々の目的を以て「堺刃物伝統産業会館」を竹中工務店の設計・施工により、材木町に建設されました。それに伴いロゴタイプデザインの指名コンペが行われ、私がアートディレクション、息子 亮がCGデザインを担当共同製作により参加し、採用作品に選ばれました。7月20日の竣工式に於いて受賞し、副賞を頂戴しました。ロゴタイプは、サインボード、法被、封筒、日本手拭等に幅広く活用されています。新世紀へのデザインの掛け橋が出来たことを喜ばしく思っております。以下そのロゴタイプとデザインコンセプトをご紹介します。

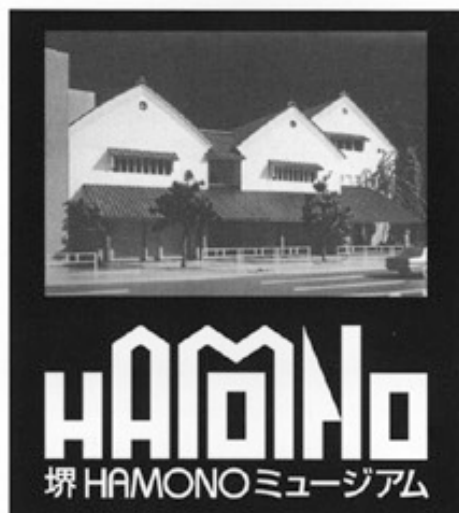


上野 あきら

DESIGN CONCEPT

打刃物が21世紀に受け継がれる伝統産業としてHAMONO=BLADE=SAKAI が世界に通用するワードとなることを願い、ロゴタイプデザインはアルファベットの“HAMONO”とした。AとMで建物の屋根を象徴し、堺刃物伝統産業会館の厚重さと刃物の持つシャープさを、6文字にデザインした。カラーリングは堺が生んだ茶人“千利休”が好んだ色であり、日本の伝統色である利休色を、コンセプトカラーとした。千利休は堺の海産物問屋に生まれ、信長・秀吉の茶頭として侘茶を完成し、天下一の茶匠となった。堺が世界一の刃物産地となり“HAMONO”が“世界の堺刃物”であると確立された時、“HAMONO”は真のグローバルスタンダードとなるのである。

DESIGNER : Ryo Ueno
ART DIRECTOR : Akira Ueno



〈別表〉

堺デザイン協会 活動計画の具体化のアンケート集計

FAXはお持ちですか	自宅	ある	ない	勤務先	ある	ない	設置予定
回答数 13名		7	5		6	6	0
インターネットアドレスを持っている	Eメールアドレス	ホームページアドレス	会社用	個人自宅用	持っていない	将来も持たない	予定はある
回答数 13名	4	2	3	1	9	3	3
コンピューターをお持ちですか	ある	ウィンドウズ	MAC	持っていない	設置予定はある	ウィンドウズ	MAC
回答数 13名		3	5	6		1	2
インターネット講習会に参加しますか	参加する	内容によって参加する	参加しない				
回答数 13名	1	3	9				
委託事業を受ける事が出来ますか	出来る	条件により、可能	出来ない				
回答数 13名	4	3	5				
受託事業の得意、可能分野は	展示装飾企画制作	製品デザイン・企画	インテリアデザイン	家具デザイン	公共美術彫刻など	環境美術計画	トータルビューティー
回答数 14名	1	1	2	2	1	1	1
	ファッションデザイン	メイクアップ、ネイル	グラフィックデザイン	商業写真	工業ビデオ制作	インテリア教育	デザイン基礎教育
	1	1	1	1	1	1	1

堺デザイン協会活動日誌

事務局

◆平成12年11月10日(金) 18:30~20:30

定例理事会 オカムラデザインプロ事務所にて
(理事出席者)岡村 筈・高木 外・金子誠之助・森 達男
・上野あきら・岡本安吉・崎田公明・館野羊一
(事務局)岡村松三

〈議題〉

1. 経過報告について(岡村理事長より) ●他団体活動報告
●堺市関連活動報告など
2. 年末・年始活動予定 ●理事会12月1日開催決定 ●13年度、役員改選、総会準備、年度会費の請求予定を確認。
3. 堺デザイン協会の事務所移転の件 ●オカムラデザインプロの事務所移転に伴うため、新事務所候補を理事会員の事務所に移設、お願いする件など2候補を交渉すること。理事長に一任を、承認。
4. 広報委員会報告 ●会報SaDAの発行予定を年明けから行なう。●ミニ判会報でもいいから、発行部数を1回増やしたい。了承。●会員へのアンケートの結果報告。
●会員のFAXの普及率が60%程度であるので、連絡など発信は無理。インターネット通信はさらに普及していないので無理。(10頁別表を参照) ●会員からの意見の集約の報告。

◆平成12年12月1日(金) 18:30~20:00

定例理事会 オカムラデザインプロ事務所にて
(理事出席者)岡村 筈・高木 外・金子誠之助・森 達男
・上野あきら・崎田公明・館野羊一
(事務局)岡村松三

〈議題〉

1. 経過報告について(岡村理事長より) ●会員移動報告…
1名の退会届け受理の報告、12年度会費未納者の報告。
2. 事務所移転交渉の結果報告 ●堺市内が望ましいというところで2件交渉したが、一案不調のため、岡村松三宅に依頼した。移転完了は2月以降となる。広報は後日行なう。理事会、了承。●オカムラデザインプロの移転業務が多忙のため、理事長より3月まで高木副理事に理事長代行を依頼。了承。

◆平成13年3月9日(金) 18:30~20:30

定例理事会 なんば「カフェ・ドラベ」にて(注記:オカムラデザインプロ事務所移転のため、理事会会場を変更)
(理事出席者)岡村 筈・高木 外・金子誠之助・上野あきら
・山崎 晶・崎田公明・館野羊一
(事務局)岡村松三

〈議題〉

1. 経過報告について(岡村理事長より) ●事務局移転完了の報告、移転報告の詳細が決定後ハガキにて会員、賛助会員や関連各所に発送をする。
2. ●役員改選のための会員名簿確認、作成と選挙管理委員会の設立。●年会費徴収日程と新入会員、退会会員の確認を行なう。●総会開催を6月9日として、準備を行なう。●会員名簿の確認を理事長、事務局、広報委員で行なう。
3. 会報SaDAの編集方針の件 ●広報委員より ●割り付け案、原稿投稿の依頼者を検討した。今回は4ページ程度とし、「会員、賛助会員からの発信」を編集方針とする。会員への投稿依頼を郵送、架電により依頼する。
●堺市「未来デザイン」の特集のため、市役所に聴取のため訪問を予定。理事長と館野が訪問する。
4. 堺市内名跡探訪見学会を高島屋真珠と協賛開催の件
●4月14日に開催。SaDAの探訪先への協力を行なう。

◆平成13年3月28日(水) 18:30~20:30

臨時理事会 なんば「カフェ・ドラベ」にて
(理事出席者)岡村 筈・高木 外・金子誠之助・崎田公明
・上野あきら・館野羊一
(事務局)岡村松三

〈議題〉

1. 経過報告について(岡村理事長より) ●堺市国際文化部から「堺市未来デザイン」冊子を受領した。●同部に見学会先への援助を依頼。●SaDA役員改選のための会員名簿の異動など確認報告。届出退会者3名を本人への確認をした事、退会届け受理の報告がされた。
2. 選挙管理委員の設定 ●2名の候補者への打診、依頼を理事長に一任。
3. 会報SaDAの進捗報告 ●原稿の集まり、ほぼ終了の報告。(広報委員より)

SADA

堺デザイン協会

事務局

〒590-0937

堺市宿屋町西3丁1-2-801

TEL. 0722-38-6854

FAX. 0722-38-9854

事務局住所変更のお知らせ

日頃はお世話になり、ありがとうございます。
このたび事務局を上記に移転いたしました。
これを機に一層内容の充実を図る所存でございます。
変わらぬご支援ご指導を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。
ご面倒ですがご訂正をお願いいたします。

《編集のあとで》

会報SaDAをお届けいたします。会員、賛助会員の方々にご無理を申し上げ、ご協力をいただき、発刊ができました。今回は「会員の近況から、デザイン界へ思うこと」をテーマに投稿をいただきました。それぞれのご活躍の厳しさの中から、貴重な提言をいただきました。

堺デザイン協会ではまず、交流を大切にしたいと思っています。会員、賛助会員、堺市、関連友好団体と対話を増やし、共通の課題や活動を行ないたいものです。

また、本年はまもなく当協会の役員改選が行なわれます。若い力も必要です。活動していただける方や、広く委員会活動に助力いただけそうな新入会員をご推薦下さい。

会報SaDAは常時、投稿を受け付けています。研究論文発表の場に、賛助会員の企業の方の新技术、伝統技術の紹介の場として、ご投稿をお待ちしています。

(広報委員会)



会報 SADA 21号
2001年6月6日

発行 堺デザイン協会

〒590-0937 堺市宿屋町西3丁1-2-801

TEL.0722-38-6854

FAX.0722-38-9854

編集 堺デザイン協会広報委員会

館野羊一 崎田公明